

景気動向調査の概要【平成27年4月～6月】

平成27年9月24日
富山商工会議所

北陸新幹線開業で商圈がじわり拡大 ～景気は横ばい、売上増加は業種で明暗～

今回の調査では、景気の現状のほか、今年3月に開業した北陸新幹線の影響について聞いた。

まず、景気の現状については、対象企業の約半数が「緩やかに回復している」と回答し、前回調査（平成27年1～3月）同様の結果となった。景気の状態を表す「DI」（景況判断指数）は23.1を示し、前回調査に引き続き、「好転」を示す明るい結果となった。

次に、業界別の動向としては、製造業では「一般機械」「電子部品」とともに北米の需要増加に伴い、自動車関連部品が好調となった。また、「輸送機械」の中でも四輪部品は、中国市場向けの調子良かった一方で、国内向けは不調となった。「医薬品」ではジェネリック医薬品が好調を維持したが、長期収載医薬品（既に特許が切れている新薬のうち、同じ効能をもつジェネリック医薬品が発売されているもの）は低調だった。「紙加工」は、飲料関係の包材のほか、医療向け医薬品や化粧品関係が好調で、「紙流通加工」では洋紙、板紙ともに出荷数量が増加した。

非製造業をみると、「小売」では、ギフト商品や化粧品、土産品が好調に推移した。また、外国人旅行者が多かったことから、免税売上が増加したといった声もあった。「旅行関連」では、国内旅行の調子は良かったが、北陸新幹線開業の影響からか、航空券のみの販売は不調となった。「飲食」では、立山黒部アルペンルートの開通などから、東南アジアなど海外からの観光客（特に富裕層）が増加したことで好調となった。

最後に、北陸新幹線開業による影響について、「売上面」「経費面」「商圈や取引先への影響」の3つの観点から聞いたところ、次の意見があった。まず、「売上面」では、富山駅利用者（交流人口）が増加したことで、富山駅周辺地区の飲食店や土産店への来店者も多く、売上に繋がったとの意見が見られた。このほか、観光シーズンに入ったこともあり、県内を訪れる観光客が増加し、宿泊客数が伸びたほか、東京や長野、東北方面への個人旅行者数についても増加するなど、新幹線開業に伴うプラスの効果が見られた。

次に「経費面」では、関東圏への出張はこれまで宿泊を伴っていたが、新幹線の開業により日帰り出張が可能となったことで、宿泊などの出張経費の削減に繋がったといった意見があった。

ほかにも、支店の閉鎖で出張回数が増え、出張経費などが増加したが、支店を維持した際のランニングコストと比較すると、全体的にはコストダウンに繋がったという意見も見られた。

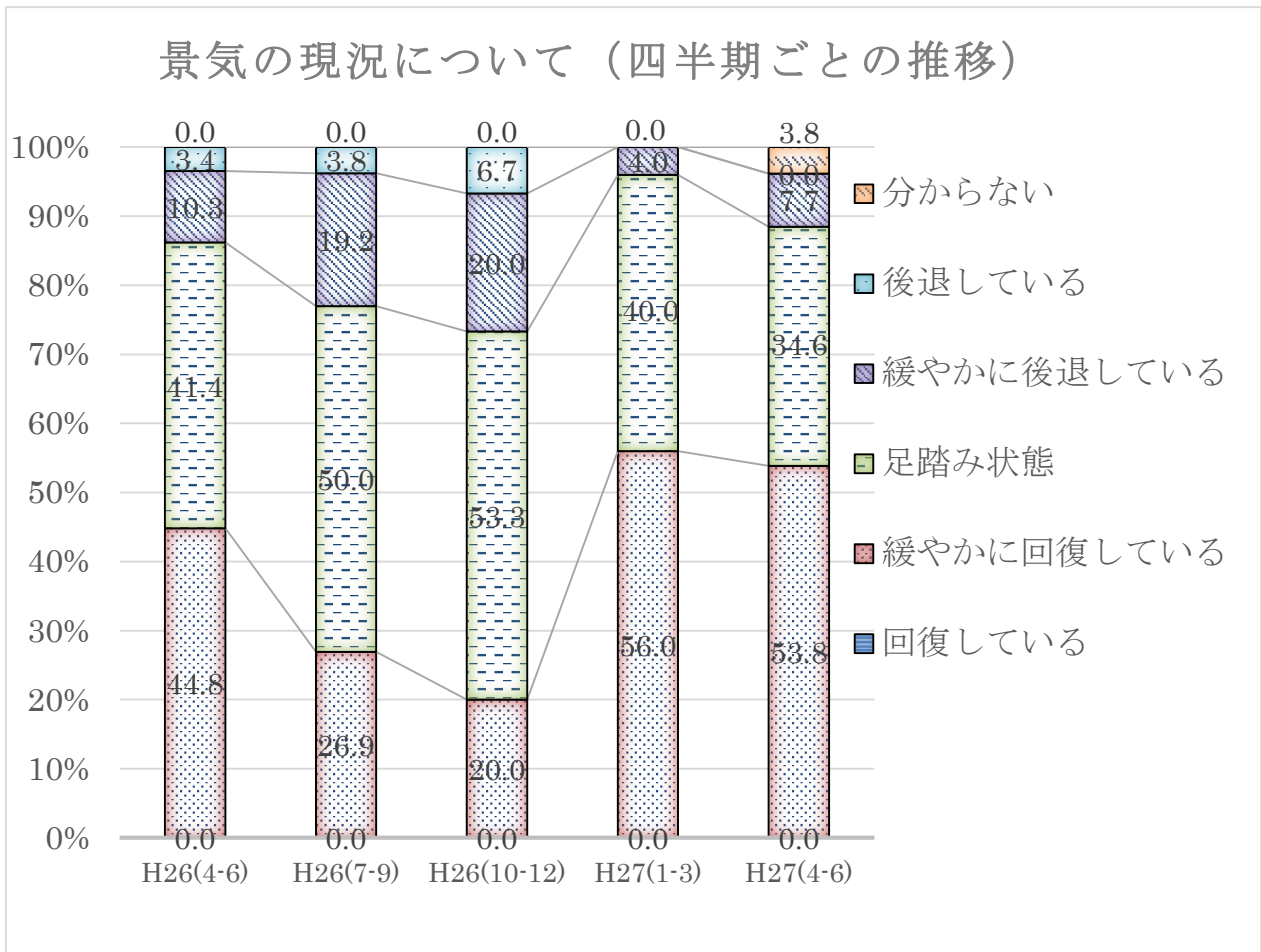
また、航空機を利用している企業からは、新幹線との価格競争で航空運賃が引き下げられたこともあり、全体として移動コストの軽減に繋がったといった意見も聞かれた。

「商圈や取引先への影響」については、複数の企業から「東京や長野等の取引先との往来が活発化し、商談が増えた」と言った意見が聞かれるなど、新幹線効果が感じられる結果となった。

1. 調査実施期間 平成27年6月30日～平成27年7月10日
2. 調査対象 当所景気モニター企業 30社
3. 調査方法 調査票を郵送し、FAXで回収（一部、電話による聞取調査を実施）
4. 有効回答数 26社（回収率86.7%）

今期の状況(%)		26年 4-6月期	26年 7-9月期	26年 10-12月期	27年 1-3月期	27年 4-6月期
①売上高	増加	36.7	37.0	30.0	52.0	61.5
	不変	13.3	22.2	26.7	20.0	19.2
	減少	50.0	40.7	43.3	28.8	19.2
	D I	△13.3	△ 3.7	△ 13.3	23.2	42.3
②売上単価	上昇	27.6	30.8	20.0	16.0	34.6
	不変	31.0	53.8	50.0	52.0	42.3
	低下	41.4	15.4	30.0	32.0	23.1
	D I	△ 13.8	15.4	△ 10.0	△ 16.0	11.5
③仕入単価	低下	3.7	7.7	10.0	4.2	12.0
	不変	33.3	53.8	50.0	54.2	44.0
	上昇	63.0	38.5	40.0	41.7	44.0
	D I	△ 59.3	△ 30.8	△ 30.0	△ 37.5	△ 32.0
④採算	好転	17.2	25.9	26.7	28.0	48.0
	不変	41.4	33.3	23.3	32.0	28.0
	悪化	41.4	40.7	50.0	40.0	24.0
	D I	△ 24.1	△ 14.8	△ 23.3	△ 12.0	24.0
⑤資金繰り	好転	0.0	0.0	3.3	4.2	4.0
	不変	96.4	88.5	83.3	83.3	88.0
	悪化	3.6	11.5	13.3	12.5	8.0
	D I	△ 3.6	△ 11.5	△ 10.0	△ 8.3	△ 4.0
⑥従業員	増加	14.3	11.5	16.7	25.0	32.0
	不変	53.6	53.8	43.3	54.2	36.0
	減少	32.1	34.6	40.0	20.8	32.0
	D I	△ 17.9	△ 23.1	△ 23.3	4.2	0.0

(2) 前期の比較と来期の見通し



今期の業況 (%)		26年 4-6月期	26年 7-9月期	26年 10-12月期	27年 1-3月期	27年 4-6月期
前期比	好転	23.3	33.3	26.7	36.0	38.5
	不変	26.7	29.6	43.3	48.0	46.2
	悪化	50.0	37.0	30.0	16.0	15.4
	D I	△ 26.7	△ 3.7	△ 3.3	20.0	23.1
来期の見通し	好転	34.5	15.4	16.7	48.0	38.5
	不変	34.5	57.7	40.0	44.0	42.3
	悪化	31.0	26.9	43.3	8.0	19.2
	D I	3.5	△ 11.5	△ 26.6	40.0	19.3

1. 企業からの主なコメントおよび業界の動向

(1) 製造業

◆一般機械

全般的に、対前年同期比で増収となった。特に、北米を中心とした自動車分野の需要増加に伴い、工具や産業機械向けの軽量コンパクトロボットの受注拡大、小型建設機械向けのシェア拡大が進んだ。また、建設機械向けの油圧事業も好調だった。

一方で、工作機械向けについては、昨年は採算面での業績が悪化したことから、今年は採算が合うよう受注を選別した。その結果、前年同期比では減収となった。

◆電気機械

アミューズメント向けのチップ抵抗器の出荷が好調だった。しかし、人工衛星用の電子部品は、取引先からの注文延期もあり、不調だった。

また、北米を中心としてカーエレクトロニクス分野やスマートフォン・タブレット等の携帯情報端末分野は好調であったが、液晶テレビやAV機器、パソコンなどのデジタル家電分野は不調となった。

◆輸送機械

中国市場での顧客販売が好調であった影響で、中国向けの四輪部品の受注が好調だった。一方で、新規製品の市場投入が遅れたことで、国内向けでは四輪部品の受注が不調となったほか、売上製品の構成が変化したことにより、北米向け四輪部品の受注も不調となった。

◆プラスチック

自社ブランド品全般が好調だった一方で、受注生産品（OEM品）が不調だった。

◆医薬品

ジェネリック医薬品が好調を維持した一方で、長期収載医薬品（既に特許が切れている新薬のうち、同じ効能をもつジェネリック医薬品が発売されているもの）が不調となった。また、配置用医薬品は依然として不調が続いている。

◆紙・紙加工

飲料関係用包材のほか、医療向け医薬品や化粧品関係の包材が好調であったが、建材関係の包材が不調だった。

◆紙流通加工

洋紙・板紙ともに出荷数量が増加した。

(2) 非製造業

◆食料品卸売

ジャガイモ、ニンジン、トマト、キュウリ、レタス、キャベツ、白葱、キウイフルーツ、オレンジ、グレープフルーツが好調だった。一方で、苺、ハウスみかん、メロン類は不調となった。

◆リース

土木建設機械や産業用機械が好調だった一方で、情報関連機器や工作機械が低調となった。

◆大型小売店・専門店

<百貨店>

婦人衣料品や子供服のほか、化粧品や美術品・宝飾・貴金属・時計が好調だった一方で、身の回り品や菓子・惣菜類が不調となった。

<ショッピングセンター>

非食品が好調となった一方で、競合店の影響で食品関係が不調となった。

<大型店>

靴やギフト商品、化粧品、医薬品などが好調だった一方で、文具や玩具、インテリア、寝装が不調となった。

<専門店>

婦人服の小売店では、天然素材のコットンや麻を使った商品が好調だった一方で、単品指向が強く、スーツやワンピースが不調となった。

靴の小売店では、アメリカやイギリスのブランド品の靴のほか、日本製の靴が人気だった一方で、低価格帯のものは不調となった。

◆旅行

国内の団体・個人旅行のほか、海外の団体旅行やJR券単品販売が好調だった。一方で、海外の個人旅行や教育団体旅行、国内航空券単品販売が不調だった。

◆宿泊

北陸新幹線開業の影響を受け、団体や個人の観光客の宿泊が伸び、宴会やレストランも好調となった。

◆飲食

立山黒部アルペンルートの開通で東南アジアから富裕層の観光客が増加し、客単価も高く、好調だった。一方で、一般客のランチタイムやディナータイムの利用は低調だった。

◆情報関連

金融機関や電力関係企業向けのシステム開発が、好調に推移した。

◆建設工事

県内の公共工事受注額は6月が好調ではあったが、前年同期比（4－6月）で59.1%と落ち込む結果となった（東日本建設保証（株）富山支店調べ）。富山市内の新設住宅着工戸数は、以下の通りである。
<富山市内の新設住宅着工戸数>

	戸数（戸）		前年 同月比(%)
	平成27年	平成26年	
4月	203	188	108.0
5月	181	230	78.7
6月	370	293	126.3

（富山県調べ）

◆新車販売

<県内の新規自動車登録台数（軽自動車は除く）> <軽自動車登録届出数>

	台数(台)		前年 同月比(%)
	平成27年	平成26年	
4月	1,980	1,935	102.3
5月	2,181	2,125	102.6
6月	2,886	2,696	107.0

（富山県自動車販売店協会調べ）

	台数(台)		前年 同月比(%)
	平成27年	平成26年	
4月	1,279	1,710	74.8
5月	1,310	1,622	80.8
6月	1,797	1,989	90.3

（軽自動車検査協会富山事務所調べ）

2. 北陸新幹線の開業による影響について

今年3月14日に開業した北陸新幹線による影響について、「売上面」「経費面」「商圈や取引先への影響」の3つの観点で聞いた。

【売上面】

- ・商業施設や飲食店に商品を納入している仲卸・小売業者の業況が好調である。
 - ・今期の3～6月の売上累計は、消費税率引き上げの影響による駆け込み需要等があった前年同期と比較すると、前年を下回る結果となったが、これは駆け込み需要の影響だけでなく、北陸新幹線の開業によるストローク現象による影響もあったと感じられる。
 - ・売上実績や売り場の状況等を見ても、金沢のように例年以上の盛況ぶりが感じられなかった。
 - ・富山駅の利用者が増加した影響で、駅周辺地区の飲食店や土産店などでは売上等に波及効果があったようだ。
 - ・東京や長野、東北方面への旅行が好調であり、前年実績を上回った。
 - ・観光客が増加しており、宿泊数も伸びている。また、ビジネスマンについても関東圏へのアクセスが便利になったことから、日帰り出張で富山を訪れる方が増えた。
- また、全国大会などの開催も増えたが、主催者側で弁当を手配するケースが多く、市内の飲食店などへの波及効果は期待された程ではなかった。

【経費面】

- ・ 宿泊を伴っていた出張が、新幹線開業の影響で、日帰り出張が可能となり、宿泊に係る経費が軽減された。
- ・ 関東圏への移動時間が短縮された影響で支店を閉鎖した。これにより日帰り出張が増え、出張旅費が増加したものの、支店を維持した際のランニングコストと比較すると、全体的にはコストダウンに繋がった。
- ・ 新幹線との価格競争などの影響で、航空運賃が引き下げられたことから、全体としては移動コストの軽減に繋がった。

【商圈や取引先への影響】

- ・ 富山工場への来訪者が増加した。
- ・ 東京支社へのアクセスがよくなり、支社への往来回数が増加した。
- ・ 首都圏との商談が増加したことに加えて、富山と長野の往来も活発となった。
- ・ 新幹線により地元企業の商圈が拡大することで、地域経済に好循環が生まれ、地域の活性化に繋がると感じる。

【その他】

- ・ 東京で開催される展示会やセミナーに参加するため、日帰り出張が増えた。
- ・ 関東圏からの人材確保に繋がると良い。
- ・ 新幹線効果が一過性とならないよう、行政と民間が連携・協力して努力して欲しい。
- ・ 金沢と富山の来県者数の差が気になる。
- ・ 富山きときと空港と羽田空港を結ぶ全日本空輸(株) (ANA) の動向を注視している。